

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

ⅦとⅧが記述式で、それ以外はマーク式。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）

- ・2020年度以降の長文3題（大問Ⅰ～Ⅲ）の総語数は、「2,390→1,985→2,523→2,533→2,505→2,361」で推移している。この3題以外にも読解系の大問が4題あり、全体の英文量は非常に多いので、時間配分に注意する必要がある。
- ・2020年度以降の客観式の設定問数は、「44→47→45→47→46→46」となっている。

出題の特徴や昨年との変更点

- ・2017年度以来出題されていなかった「中文による内容一致問題」が2020年度に復活し、大問数が7から8になり、2025年度もこのパターンを踏襲している。
- ・長文問題では、29問中、空所補充が9問、下線部内容説明が11問と数多く出題されているのが特徴的。

その他トピックス

- ・長文問題の「内容一致」には、推論させるものや文章全体の要約に近いもの（タイトルを含む）が出題されることが多い（2025年度は3題とも「要点選択」や「タイトル選択」が最後の設問になっている）。
- ・大問Ⅳの(30)の正解は2の **questionable as to** となるが、**as to** が無いほうが自然な英語といえる。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	読解総合	「古代の人類の環境変化への優れた適応力」 (844 words)	空所補充、内容説明、内容一致 内容説明では下線部が意味する内容の理解度を試している（例：the green highway hypothesis）。	標準
II	読解総合	「幸福の追求」 (689 words)	空所補充、内容説明、内容一致、内容不一致 長文3題のなかでは語数は少なめだが、内容は哲学的で難解であるので、設問や選択肢の内容を参考にしながら読み進めていくのがよいだろう。	やや難
III	読解総合	「チャットチェックアウト」 (828 words)	空所補充、内容説明（内容不一致を含む）、内容一致 空所補充と内容説明が4問ずつと多く、設問に関連する箇所を重点的に読み進めることができる。	標準
IV	文法・語法	空所補充	7問のうち5問が動詞に関連するもので、(31)は空所直後の otherwise の理解がポイントになる。	標準
V	その他	中文空所補充	英文中の6つの空所に入る適切な語句を選ぶ。テクノロジーの進歩に関する文章で、内容はわかりやすく、正解は比較的容易に判定できる。	やや易
VI	その他	中文内容一致	4つの文章（100～150語）を読み、そこから推測できる内容などを選ぶ。選択肢に紛らわしいものが含まれており、正解を決めるのに悩むものがある。	やや難
VII	その他	中文空所補充（記述）	英文中の6つの空所に、与えられた6つの動詞を必要に応じて語形を変えて補充する。語形を変える際には、時制や態のほかにも文構造にも注意する。	標準
VIII	その他	中文空所補充（記述）	英文中の5つの空所に、与えられた5つの動詞を適切な名詞にして補充する。名詞形に正しく直すだけでなく、単数・複数の扱いにも注意する。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本文は比較的読みやすく、設問も素直なものが多いので、基本的な読解力をつけるように学習すれば十分に
対応できるレベルである。文法・語法問題も、極端に難しい問題は出題されないので、過去問や問題集を利用
して頻出事項を押さえておくとよい。動詞関連の出題が多いので、動詞の語法には注意を払う必要がある。
例年、記述式の語彙問題が出題されるので、単語は正しくつづれるように練習することも大切である。